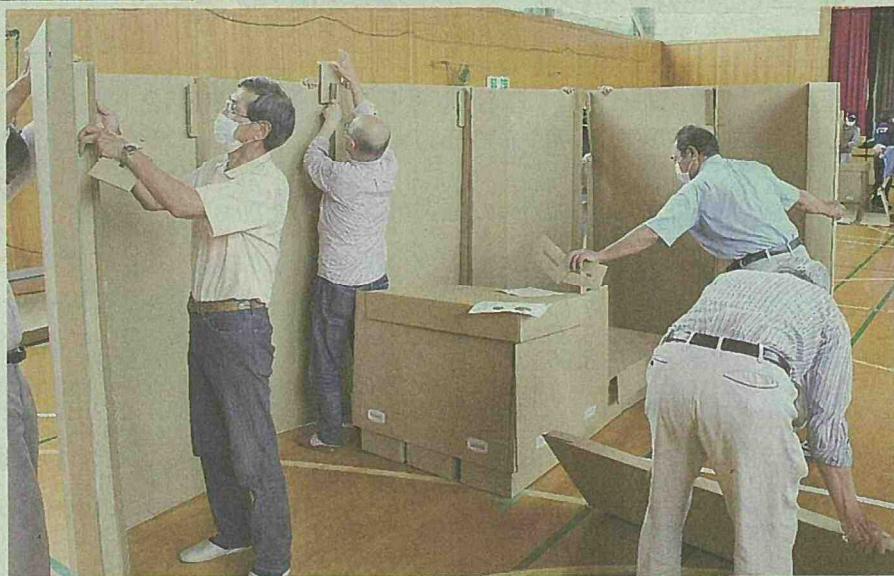


避難所の感染予防意識高め

中越沖地震13年

段ボールベッド 間仕切り体験会

柏崎



段ボール製ベッドと間仕切りの組み立てを体験する住民
=16日、柏崎市

中越沖地震から13年となつた16日、最大震度6強を観測した柏崎市では、新型コロナウイルスなどの感染症予防策として避難所で使う段ボール製のベッドや間仕切りの体験会が初めて開かれた。全市一斉の地震対応訓練もあり、住民は災害や感染症に備える意識を高めた。

市は本年度、段ボール製のベッドと間仕切り100セットを新たに購入した。災害発生時に足りない分は、災害協定を結ぶ段ボール製造会社に随時発注する。ベッドは縦約200㌢、横約100㌢、高さ約30㌢で、枕の上に屋根が付く。間仕切りは高さ2㍍弱で、2㍍四方を囲むことができる。

野義一会長(69)は「ベッド

る。飛沫感染や工コノミークラス症候群の予防に効果があるとされる。

体験会は市が北鰐石、鯨波の両コミュニティセンターで開き、各町内会の自

主防災会などから約120人が参加した。北鰐石の体育館では、住民約30人が班に分かれ、市職員の指導を受けて組み立て作業に臨んだ。ベッドは約10分で完成したが、間仕切りは高さがあるため苦労する班が多く、15分ほどかかりた。

参加した与三町内会の萩原義一会長(69)は「ベッドをするシェイクアウト訓練をするシエイクアウト訓練も行われた。防災行政無線の放送を合図に、その場で姿勢を低くして頭を守り、揺れが収まるまで動かないよう呼び掛けた。新道小

製本
志まや

新発田電二二一〇二番



の下に隠れた。4年鈴木爽加さん(10)は「災害はいつ起ころか分からないので、これからも訓練を頑張りたい」と話した。

毎年法要を営んでいる同市番神2の番神堂では、新型ウイルス感染防止のため規模を縮小し、住民ら10人が地震発生時刻の午前10時13分に黙とうした。秋山文孝住職(89)は「災害に遭われた方の冥福と、新型ウイルスの早期収束を願った」と話した。

話かご

○・大阪・梅田駅では、駅写真で紹介。利用者が足をいた。大阪府箕面市の看護展示が大阪梅田

た!!写真!!。9月30日までの歴史を紹介す
○・大阪梅田駅では、駅写真で紹介。利用者が足をいた。大阪府箕面市の看護展示が大阪梅田

「阪急は色が上品。座った
の電車と違い、みんなの憧
○・阪急電鉄によると、

のベッドと間仕切り100セットを新たに購入した。災害発生時に足りない分は、災害協定を結ぶ段ボール製造会社に随時発注する。ベッドは縦約200㌢、横約100㌢、高さ約30㌢で、枕の上に屋根が付く。間仕切りは高さ2㍍弱で、2㍍四方を囲むことができる。

野義一会長(69)は「ベッド

は、全校児童182人が机

32 梅のいで早が沿間田0